



全国に先駆けて実施したマイナ救急実証事業

令和 6 年 1 1 月 2 2 日 (金)

令和 6 年度全国メディカルコントロール協議会連絡会 (第 2 回)

平塚市消防本部 宇佐美 雅史

平塚市について



平塚市消防本部

常備救急隊数 8 隊

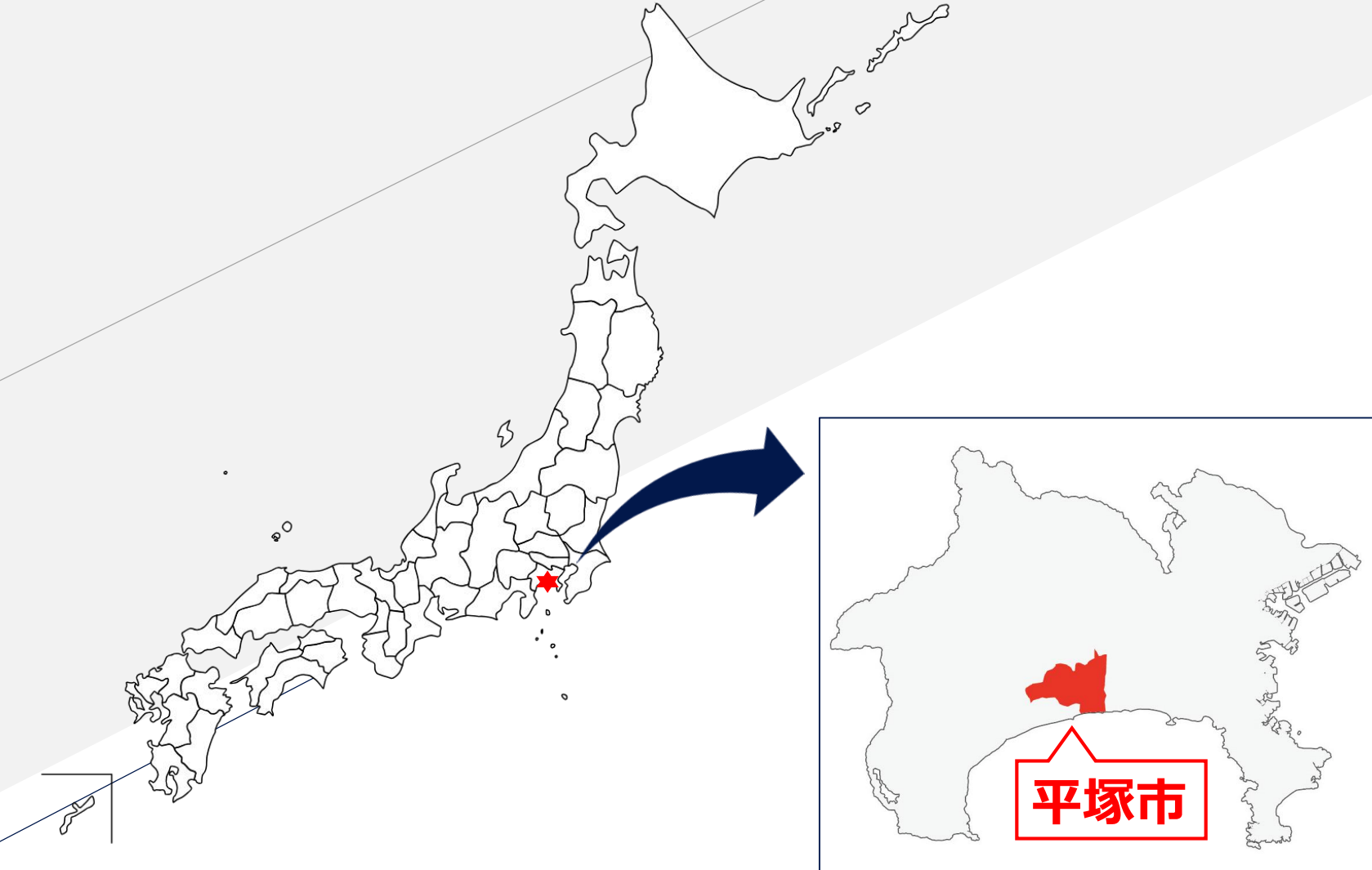
救急件数 17,166件

搬送人員 15,950人

※令和5年統計データ

市内救急医療機関

- ・三次医療機関 1 施設
- ・二次医療機関 2 施設

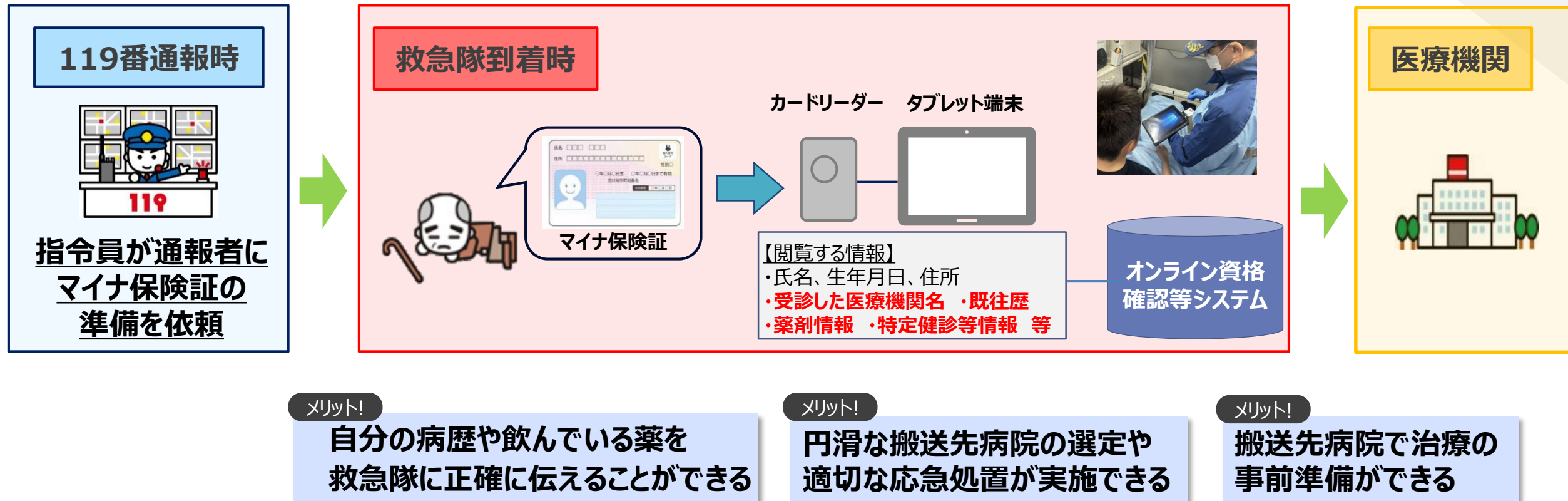


神奈川県中央南部に位置し、人口約26万人の都市である。

マイナ救急とは・・・

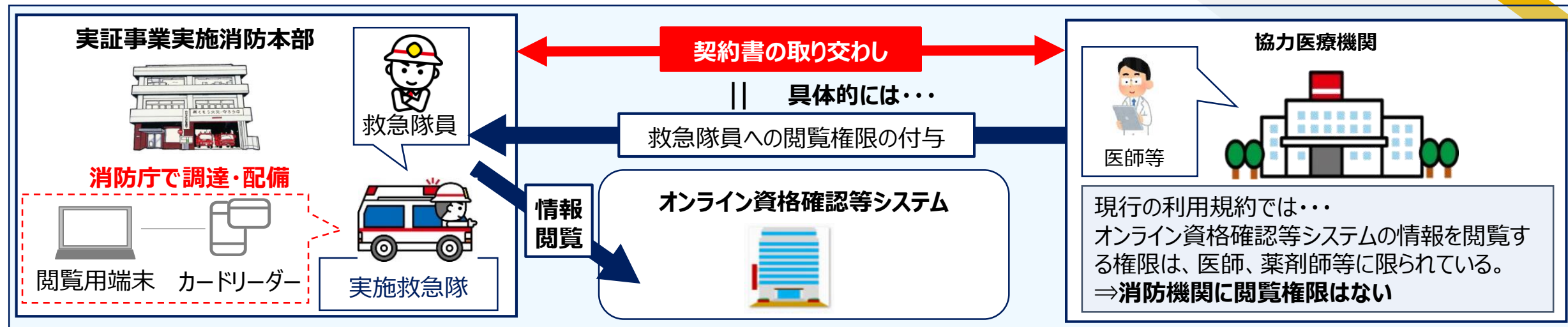
救急隊員が傷病者のマイナ保険証を活用し、病院選定等に資する情報を把握することにより、救急業務の円滑化を図る取組み。

マイナ救急の流れ



実証事業開始に向けた準備

1. 実証事業開始前の準備



2. 救急隊員向け操作説明会の実施

- 日時：令和6年5月16日、5月17日（2日間）
- 時間：9時00分～12時00分
- 対象：実証事業実施救急隊長など
- 内容：実証事業の実施要領、システム利用の流れ
タブレット等の機器操作方法、注意事項の周知徹底など



操作説明会の様子

実証事業開始に向けた準備

3. 各メディアを活用した広報

パンフレット

マイナンバーカードを活用した
救急業務の
実証事業を実施します

平塚市消防本部では、救急車を必要とする傷病者本人の同意を基本として、マイナンバーカードを活用して通院履歴や服薬情報等を把握し、救急業務を円滑化、迅速化します。皆様のご理解とご協力をお願いします。

マイナ保険証を活用するメリット

救急隊に正確な情報を伝えられる

病院の選定や搬送中の応急処置を適切に行える

搬送先病院で治療の事前準備ができる

実施期間

2024年 5月中旬～7月中旬

※ 前後する可能性があります。

実施救急隊

平塚市消防本部の全救急隊(8隊)

マイナ保険証の利用登録はこちら

事前準備

マイナ保険証の利用登録が必要です！



 本実証事業にご協力いただくため
マイナンバーカードの携帯をお願いします



お問い合わせ

平塚市消防本部 消防救急課 救急救命担当

TEL:0463-21-9729



実証事業に関する情報は救急サイトでもご覧いただけます。

※本実証は総務省消防庁が全国の67消防本部と連携して実施するものです。



広報ひらつか
2024年6月

YouTube

救急搬送時にも！
もしもの時に役立つ
マイナンバーカード



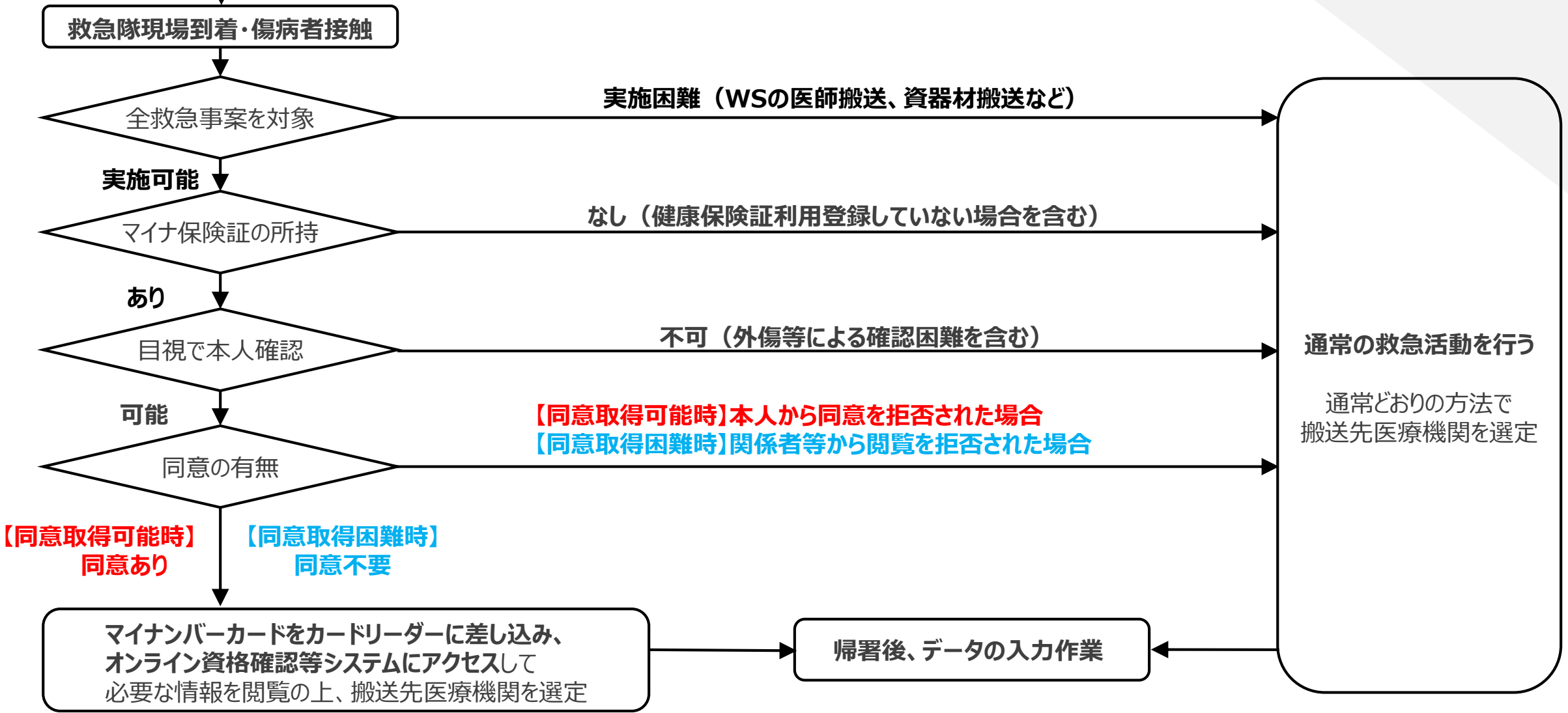
6:51

「デジタル庁ニュース」
救急搬送時にも！もしもの時に役立つマイナンバーカード
(8/1より公開中)
平塚市消防本部、マイナ救急に係るインタビュー映像
URL : <https://www.youtube.com/watch?v=MB5XYxMIDjQ>

実証事業における活動フロー



119番通報の受電時、指令員等は通報者に傷病者のマイナ保険証の準備を依頼する。
※口頭指導など必要な対応を行った上で、可能な範囲でマイナ保険証の準備を依頼すること。



実証事業の概要

【実施救急隊】 全救急隊（8隊）

【対象事案】 全救急事案

【実施期間】 令和6年5月23日（木）8時30分から
7月22日（月）8時30分まで

※全国で最も早く実証事業をスタート

＜平塚市のマイナンバーカード保有率等について＞

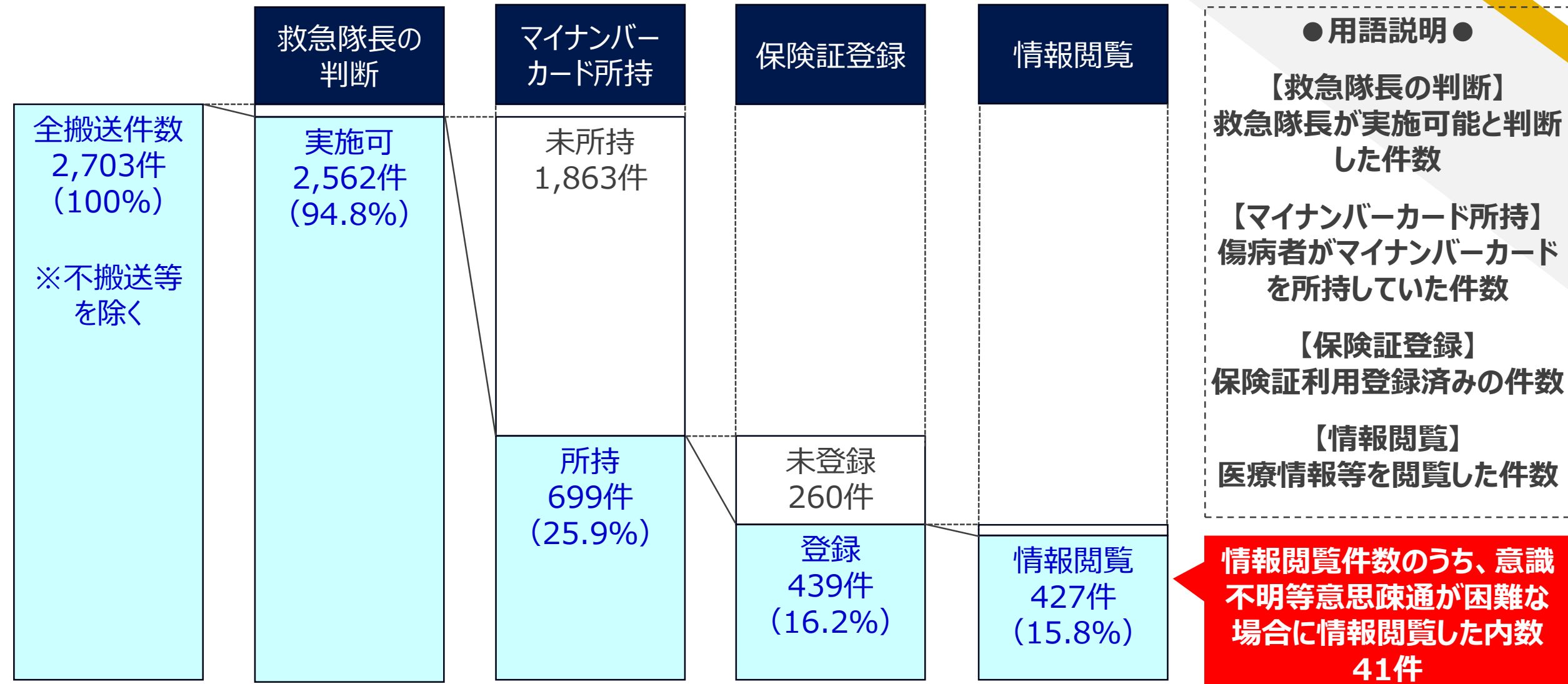
- マイナンバーカード保有率 ※令和6年5月末時点
平塚市 74.8% 全国 73.8%
- 保険証紐づけ率 ※令和6年2月末時点
全国 57%



車両表示用マグネット

実証事業の結果①

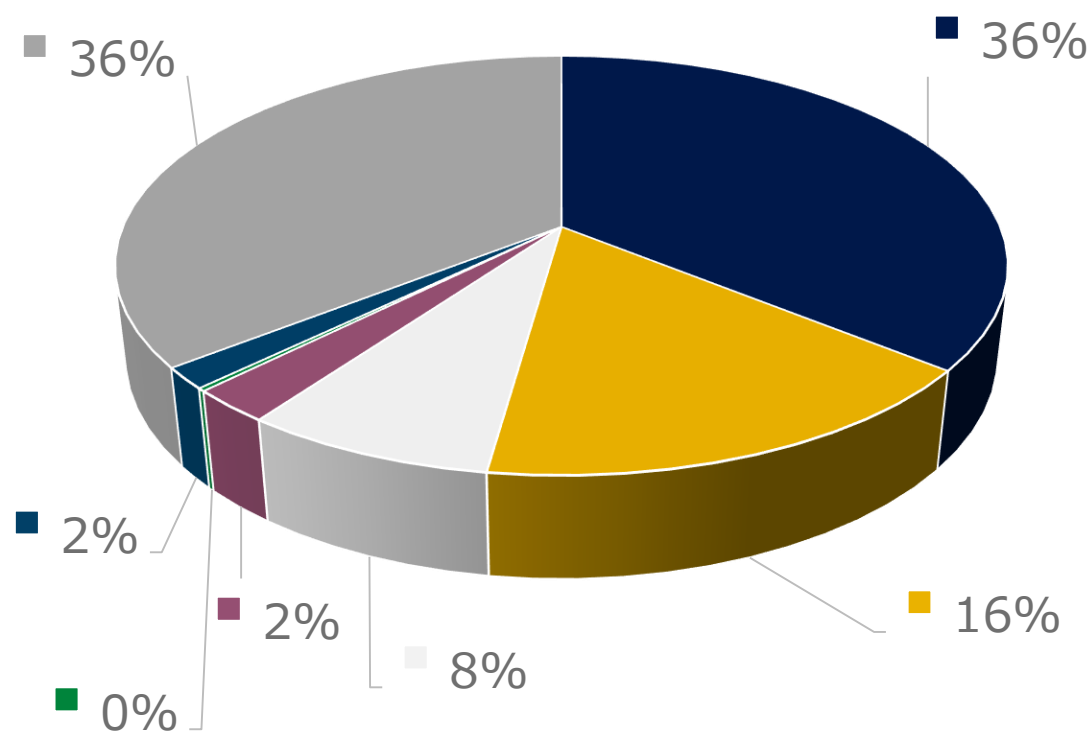
【全搬送件数の内訳】



※ () は、全搬送件数に占める割合

実証事業の結果②

救急隊員が医療情報等を閲覧したことによる効果



- 病院への引継ぎがスムーズにできた
- 傷病者が救急隊員などに説明する負担を軽減できた
- 治療の準備等に役立つ情報を医療機関に提供できた
- 搬送先の医療機関選定がスムーズにできた
- 傷病者のプライバシーを保護できた
- その他
- 有効活用できなかった

Point!

- ▶ 正確な情報把握と医療機関への情報伝達の効率化（救急隊側のメリット）
- ▶ 傷病者の肉体的・精神的な負担の軽減（傷病者側のメリット）
- ▶ 医療機関が正確な情報を把握することで、迅速な救命処置を開始（医療機関側のメリット）

実証事業の結果③～奏功事例～

年齢・性別

60歳代 男性

通報内容

外出先でふらつき、立ち上がることができない

現場到着時
バイタルサイン

JCS : 10

呼吸 : 18回

脈拍 : 69回

血圧 : 158 / 95 mmHg

心電図 : 洞調律

体温 : 36.5℃



実証事業の様子

奏功理由

救急隊は傷病者がなぜ意識障害を起こしているのか分からなかった。

そこで、**本人が所有していたマイナンバーカードから情報を確認したところ、既往に「Ⅰ型糖尿病」があることが判明。**

血糖を測定したところ低血糖であることが判明し、ブドウ糖を投与。

搬送中に意識レベルが改善し、最終的に会話可能な状態まで回復した。

マイナ救急の今後に向けて

救急隊、傷病者及び医療機関それぞれにとって、有用性が高い事業であると感じた。

今後の更なる活用に向けて・・・

Point!

①マイナンバーカードの携行を習慣化する

→外出先でのデータ閲覧事案が少なかったため、常にマイナンバーカードを携行するよう、広報していく必要がある。
特に、高齢者層にもしっかりと伝わる広報を行っていくことが求められる。

②円滑かつ効率的な救急活動に向けた活用方法の改善

→現場での円滑な救急活動につなげるため、操作の簡略化や閲覧できる内容の精査が必要であり、救急隊は必要な情報をしっかり見極めて、現場活動につなげる必要がある。

③意識障害のある傷病者への対応方法の確立

→意識障害のある傷病者に対して、マイナンバーカードから得られた情報により、有効な活動が実施できた事例があった。口頭での情報収集が難しい傷病者こそ、メリットが大きい事業だと考えられるため、対応方法を確立する必要がある。

ご清聴ありがとうございました。

